

第86回メーデーが4月29日(連合紀州熊野地協のみ5月2日)、各地方でひらかれ、多くの労働者が結集した。

◆連合紀北ブロック  
連合紀北地方メーデーがホール田園(紀の川市・南別館)でひらかれ、紀北ブロックから、飯田敬文・

県連副委員長をはじめ、県連各支部から参加した。

はじめに、主催者を代表して馬場伸浩・連合和歌山紀北地域協議会兼実行委員長から「組織拡大・政策制度をはじめ、あらゆる分野での運動をおこない、雇用形態にかかわらず安心して働き希望をもって暮らすことのできる社会を築くため労働運動をさらに展開していく」とあいさつした。

「メーデー宣言」(案)が中西徳夫・県職員労働組合那賀支部事務局長から提案された。最後に、労働者保護ルールの改悪阻止!年金積立金は誰のもの?「全国

# 第86回メーデー



中央集会のようす



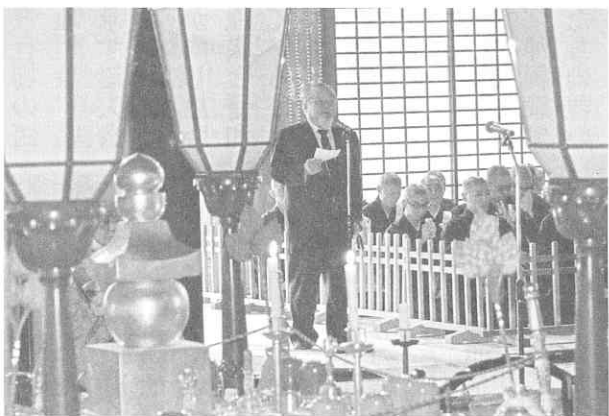
紀北メーデー

「平和を守り、雇用を立て直す。みんなの安心のため、さらなる一歩を踏み出そう!」

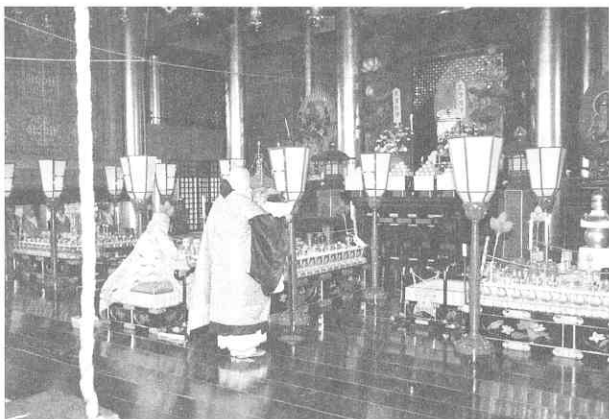
統一行動」開始宣言特別決議(案)を中谷善郎・関西電力労働組合副実行委員長

から提案され、第86回連合紀北地方メーデーが閉会した。

## 高野山で追善法会



あいさつする組坂繁之・中央執行委員長



大伽藍金堂で追善法要

高野山開

創記念大法会

1200年が

開催中の5月

7日、萬民平

等差別戒名追

善法会が高野

山大伽藍金堂

でひらかれ、

組坂繁之・中

央執行委員

長、池田清

郎・県連副委

員長、藤本眞

利子・県連特

別執行委員、事務局が参列

した。

宗団を代表して吉井恵

貫・総務部長は、1979

年にアメリカプリンストン

大学でひらかれた世界宗教

者世界会議で日本代表者が

差別発言をしたことからは

じまり、今年で32回目のお

つとめとなる。当時、その

差別発言が支持された。そ

れから1981年同和局が

設立、差別問題について真

摯に向き合っている。部落

解放からあらゆる差別(マ

イノリテイ、ヘイトスピー

チなど)について人権意識

を向上させ、改善するよう、

とくに若い宗教者に意識を

もってとりくみをすすめて

ほしい。宗教人として、この人権意識をもって法要にとりくむことを約束すると

語られた。

参列者を代表して組坂

中央執行委員長は、差別は

まだまだなくなっておら

ず、部落地名総鑑発覚から

40年経過するが、いまだ就

職差別や結婚差別に悪用さ

れている。人権問題が軽視

されるなか、差別をなくし

一人ひとりの人権を大切に

する社会をめざして努力し

なければならいと決意を表

し、お礼のあいさつをした。

### (3)

ことになったが、自民党推せん(2)の学者も含め、全員が「憲法違反」という意見であった。あわてた官房長官が記者会見で「憲法違反ではない」という学者もいる」と述べたが、日本で2、3人しかいないと指摘を受け

国会での安倍首相の国会答弁は嘘とごまかししかない。しかし、私たちは、無言の少数ではなく、主張する多数にならなければならぬ。「特定機密法」「日本版NSC」設立と情報(個人の主義主張も含め)の統制により、知らない間にこれがすすめられ、気づいた時はすでに「戦争への道」という状況になってしま

### (2)

昨年、安倍内閣は「憲法」を勝手に解釈し「集団的自衛権」行使の閣議決定をおこない「戦争のできる国」への準備をすすめて、今そのための法案を国会に提出している。連日の国会論

### (1)

過日、第60回県連大会を終えた。運動の課題は山積しているが、とくに「平和」が極めて重大な岐路に立たされている。今年、敗戦70年の年である。70年まえに沖繩戦で、そして広島・長崎に原爆が投下され、多くの生命や生活が奪われたのだ。また、アジアや南太平洋で「赤紙」一枚で多くの人びとが戦場に駆り出され生命を失った。戦争は表現できないほどの残酷さと悲惨さを人間に強いる行為でしかない。日本は、痛烈な反省のうえに「非戦の誓い」をたて「平和国家」への道を進んで来た。それから70年たった今、極めて危険な道にすすもうとしている。

## 主張 安倍内閣の「戦争のできる国づくり」に反対し、平和と人権のとりくみを強めよう!

議が紛糾しているのは当然のことである。それでも「戦争をしたくない」といえない安倍首相は、意味不明の表現や言葉を使い、なんとかごまかそうとする。また、憲法学者の意見を聞くという

ると「数ではない」と答えた。数の力で押し切ろうとする安倍内閣の姿勢からすると、まさにご都合主義の最たるもので、安倍内閣の主張は、すでに破綻しているのである。

戦争は最大の差別であり人権侵害である。宣言にある「人の世に熟あれ、人間に光あれ」という崇高な思想のもと、断固として「平和と人権を守る行動」を展開しよう!

### 文化の窓

## 「虚偽自白はこうしてつくれる」

-狭山事件・取調べ録音テープの心理学的分析-

著書: 浜田寿美男 発行: 2014年12月25日  
出版社: 現代人文社 ISBN 978-4-87798-598-1

石川さんは、最初の逮捕から約1か月間、犯行を否認していました。しかし、連日連夜の厳しい取調べで自白をしてしまい、狭山事件の犯人とされました。本書は無実の人が虚偽自白をするまでの過程と三者協議で開示された録音テープについても分され、取調べ官の心理的要因について書かれています。石川さんがどのように虚偽自白におちいったのがよくわかる一冊。



◆お問い合わせは、県連・教宣部まで  
TEL 073 473-2301